

Aイマスクはいかがですか？

## Aイマスクは、いりません

4年 K・Eさん

「なんだ、そんなもの。」

ぼくは読み終わった後に、そう思った。この本に出てくる三千円のAイマスクは、使うといつも以上の力を出すことができ、色々なことにかんばれる。もしこんなマスクがあったら、たしかにみんながむちゅうになるだろう。でもぼくは、そんなものには見向きもしない。なぜならぼくは、Aイマスクよりもっと高性能でいいマスク、姉マスクを持っているからだ。姉マスクには、何千個も機能がある。その中のいくつかを、紹介しよう。

一つ目はスイミングの、タイムアップ機能だ。ぼくと姉は、二人でスイミングスクールに通っている。スイミングでのタイム測定の時にとりのレーンに姉がいると、姉に負けたくないという気持ちから、ぼくはいつも以上の力が出て、最速のタイムを出すことができるのだ。

二つ目は暗記機能だ。ぼくは、暗記が大の苦手だ。でも姉にお願いすると、分かりやすく説明してくれたり、コロ合わせを考えてくれたりする。それによって理解が深まり、簡単に暗記することができるのだ。

三つ目はお楽しみ機能だ。姉は、面白い話やゲームをいっぱい知っている。その機能のおかげで、ぼくは学校や習い事に楽しくいくことができる。いつも、あつという間に目的地に着いてしまう。

物語の登場人物はみんな、最終的にはAイマスクを使わなくなる。機械を使っているとスルをしている気持ちになるのか、自分の力で乗り越えたいくなるようなのだ。しかしぼくは、姉マスクを使い続けていても全く気にならない。理由は、人間同士で助け合っているだけだからだ。ぼくが姉を助けていることもあるかという話は、一回置いておこう。この姉マスクは、勉強し運動し、どんどん強化されていく。近くで見ていると、そのスピードはすさまじい。ぼくは、いつまでも姉マスクにたよって、楽しく生きていきたい。